

ある日の不思議な体験

ゆうた。

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

普通の高校生である俺の不思議な体験の話

目次

ある日の不思議な体験

1

ある日の不思議な体験

俺は普通のどこにでもいる高校生。

普段通りに学校に行き、部活をやって帰って飯を食って寝た。

昨日もそうしたし、明日もそうなると思ってた。

チュンチュン…

「んー、もう朝か…。学校めんどうだなあ…。」

伸びをしたところである異変に気づく

「ん？ここはどこだ…。？昨日は普通に自分の部屋で寝てたはずなのに…。」

??? 「あ、気がついたみたいだよ！」

聞き覚えのある声が聞こえてきた

声のする方を向くとそこには、sのリーダー高坂穂乃果がいた

「穂乃果ちゃん!？」

穂乃果 「どうして、穂乃果の名前しってるの？」

「あつ、えつと…。」

穂乃果 「まあ、いつか!」

海末 「穂乃果!あまりあまり大きな声を出すん

じゃありません!」

ことり 「海未ちゃん……。海未ちゃんも大きな声になってるよ?」

海末 「え?そんなつもりじゃ……。申し訳ありません……。」

同じく、sのメンバーで穂乃果の幼なじみの海未とことりまでいる
一体どうなってるんだ……。?

「ハハハはどハハ?」

海末 「ここは音乃木坂学院の屋上ですよ。」

ことり 「練習に来たら君が寝てるからびっくりしちやった(笑)」

屋上……。?なんで俺はそんなところに……

穂乃果 「それにしてもどうして、屋上で寝てたの?」

「……」

ことり 「覚えてないの?」

「うん、自分の部屋で寝てたはずなんだけど。」

海末 「不思議ですね。」

